セグメント別活動状況

事業カテゴリー		セグメント	
基幹事業	売上高 67.2%	繊維事業	
	営業利益 56.1%	プラスチック・ケミカル事業	
戦略的拡大事業	売上高 20.7%	情報通信材料・機器事業	
	営業利益 35.5%	炭素繊維複合材料事業	
重点育成・拡大事業	売上高 11.4%	環境・エンジニアリング事業	
	営業利益 7.3%	ライフサイエンス事業	

(注) 1　数字は、各セグメントの売上高、営業利益が、それぞれ連結売上高、連結営業利益に占める比率を示しています。
2　上記カテゴリー以外に、その他の売上高147億円(0.7%)、営業利益20億円(1.1%)と、調整額の営業利益△207億円があります。

東レグループは、繊維、プラスチック・ケミカルの両セグメントを安定的な事業拡大・収益拡大を牽引する「基幹事業」とし、情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料の両セグメントを戦略的かつ積極的に事業拡大をはかり、中長期にわたって収益拡大を牽引する「戦略的拡大事業」と位置付けています。さらに、環境・エンジニアリング、ライフサイエンスの両セグメントを次世代の収益の柱として育てていく「重点育成・拡大事業」と位置付け、持続的な事業収益拡大を目指しています。

主要製品	用途例
ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び織編物、不織布、人工皮革、アパレル製品	• 紳士服、婦人服（ストッキング：ナイロン製品、ドレスシャツ：ポリエステル綿混織物、アパレル製品、コート：人工皮革） • 自動車（エアバッグ：ナイロン繊維、カーシート、シートベルト：ポリエステル繊維） • 家具・インテリア（ソファ：人工皮革、カーペット：BCFナイロン、カーテン：非ハロゲン難燃加工素材） • 紙おむつ：ポリプロピレン長繊維不織布 • テント：ポリエステル繊維
ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品、ポリオレフィンフォーム、ポリエステル・ポリプロピレン・PPS等のフィルム及びフィルム加工品、合成繊維・プラスチック原料、ゼオライト触媒、医・農薬原料等のファインケミカル、動物薬（下記「情報通信材料・機器」に含まれるフィルム・樹脂製品を除く）	• 自動車部品（ラジエータータンク、インテークマニホールド：ナイロン樹脂、コネクター：PBT樹脂、ハイブリッドカーのコンデンサー：ポリプロピレンフィルム） • 家電製品（洗濯機、掃除機、エアコン等のハウジング：ABS樹脂） • 電動工具ハウジング（電動丸ノコハウジング：ナイロン樹脂） • 太陽電池バックシート：PETフィルム • 食品パッケージ：ポリプロピレンフィルム、PETフィルム • 動物薬（イヌ用、ネコ用）
情報通信関連フィルム・樹脂製品、電子回路・半導体関連材料、液晶用カラーフィルター及び同関連材料、磁気記録材料、印写材料、情報通信関連機器	• 薄型テレビ：PETフィルム、カラーフィルター製造用機器 • パソコン：PETフィルム、回路材料、ポリイミドコーティング剤 • 携帯電話：カラーフィルター、LCP樹脂、回路材料、PETフィルム • リチウムイオン二次電池：セパレータ向けポリエチレンフィルム • 印刷：水なし平版、樹脂凸版、機器 • サーバーのデータバックアップ用テープ：PETフィルム • 半導体：半導体用コーティング材料
炭素繊維・同複合材料及び同成形品	• 飛行機の構造部材：炭素繊維複合材料 • スポーツ用品（ゴルフシャフト、テニスラケット：炭素繊維複合材料） • 自転車フレーム：炭素繊維複合材料 • パソコン筐体：炭素繊維成形品 • 風力発電用風車：炭素繊維 • 船舶・ボート：炭素繊維 • 産業用機器部材：炭素繊維、同成形品 • 橋の補強部材：炭素繊維織物
総合エンジニアリング、マンション、産業機械類、環境関連機器、水処理用機能膜及び同機器、住宅・建築・土木材料	• 海水淡水化設備：水処理機能膜及び同機器 • 下排水処理設備：水処理機能膜及び同機器 • マンション • 建材：住宅用外壁材、ビル内装用建材 • 工場・生産装置：総合エンジニアリング
医薬品、医療機器	• 医薬品（天然型インターフェロンβ製剤、経口プロスタサイクリン誘導体製剤、経口そう痒症改善剤） • 医療機器（血液透析器、血液浄化器、透析装置）

基幹事業

繊維事業

売上高
(億円)

8,920億円

2015 8,920

2014 8,567

営業利益
(億円)

689億円

2015 689

2014 556

ROA(営業利益/資産)

9.9%

営業利益率

7.7%

設備投資額

354億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	8,567億円	**8,920億円**	4.1%	9,100億円
営業利益	556億円	**689億円**	23.9%	710億円
資産	7,055億円	**6,809億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

繊維セグメントの売上高は前年度比4.1%増の8,920億円、営業利益は同23.9%増の689億円となりました。

国内では、衣料用途は需要が低調で、産業用途も自動車関連用途向けの一部で顧客による在庫調整の影響が出るなか、全般的に拡販に努めるとともに、糸綿／テキスタイル／製品一貫型ビジネスの推進をはじめとする事業の高度化などを進めることで採算の改善に注力しました。

海外では、欧州需要の低迷や中国内需の伸び悩みの影響を受けましたが、中国や東南アジアのテキスタイル子会社が拡販と高付加価値品へのシフトを進めました。またエアバッグ用基布や内装材料といった自動車関連用途向けが堅調に推移し、衛生材料向けも東南アジアやインドにおける需要が拡大しました。

2016年度OUTLOOK

国内では、デフレ傾向の長期化に伴う個人消費低迷の影響で衣料用途の需要は低調に推移する懸念があります。海外では、米国経済は堅調な推移が見込まれますが、欧州の政情不安や中国をはじめとする新興国の成長鈍化など全体としては厳しい環境が継続することが見込まれます。

こうした事業環境のもと、東レの繊維事業の強みである「糸綿／テキスタイル／製品一貫型事業」の強化・拡大を進めるとともに、自動車エアバッグ用途や衛生材料用途、環境分野などの成長分野、中国や新興国、米国など成長地域での拡販を進めます。併せて、コスト削減などにより事業体質を強化し、基幹事業として期待される収益の拡大とグローバルな事業拡大を目指します。

Topic

ユニクロ社と「第Ⅲ期戦略的パートナーシップ」を締結

東レと(株)ユニクロはこれからの時代をリードする新しい産業の実現を目的とし、2期10年続いてきた「戦略的パートナーシップ」をさらに強固なものにするため、「第Ⅲ期5ヵ年計画」に関する合意書を締結しました。「素材には本質的に社会を変える力がある」という信念を持って「先端材料で世界のトップ企業を目指す」東レと「服を変え、常識を変え、世界を変えていく」という志のもと「ライフウエアで世界一のSPAを目指していく」ユニクロとは、グローバル化とデジタル化をさらに推進させ、以下の実現に取り組み2016年から2020年までの5年間で、取引累積額1兆円を目指します。

(1)グローバル化とデジタル化による新しい産業の創出

- ・生産拠点の一層のグローバル化と多極化
- ・市場別最適生産の推進
- ・IoT(Internet of Things)を活用し、両社でEnd to Endビジネスを実現

(2)"Life Wear"と"MADE FOR ALL"商品のさらなる追求

- ・既存商品の快適さや機能性の向上
- ・これまでにない新しい価値のある商品の研究開発
- ・日常生活を快適に過ごせるスポーツウエアの開発を加速

基幹事業

プラスチック・ケミカル事業

売上高
(億円)

5,212億円

2015 5,212

2014 4,964

営業利益
(億円)

294億円

2015 294

2014 239

ROA(営業利益/資産)

5.4%

営業利益率

5.6%

設備投資額

312億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	4,964億円	**5,212億円**	5.0%	5,400億円
営業利益	239億円	**294億円**	23.1%	340億円
資産	5,621億円	**5,246億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

プラスチック・ケミカルセグメントの売上高は前年度比5.0%増の5,212億円、営業利益は同23.1%増の294億円となりました。

樹脂事業は、国内では自動車関連用途向けの出荷が生産台数減少の影響を受けましたが、それ以外の用途は全体として堅調でした。海外では米国の子会社で自動車関連用途向けの出荷が拡大し、マレーシアの子会社もABS樹脂の出荷が堅調に推移しました。

フィルム事業は、包装用途向けが国内外で堅調でした。また、多くの用途で価格競争の影響を受けましたが、高付加価値品の拡販や原価改善に注力することで採算の改善に努めました。

2016年度OUTLOOK

原燃料価格の動向は不透明ですが、世界の自動車生産は、北米・欧州を中心に堅調な推移が見込まれます。包装用フィルムでは、世界的に要求品質が高まり、高機能品需要の伸びが期待されます。

こうした事業環境のなか、樹脂事業では、グローバルに需要堅調な自動車向けや非自動車向けの高付加価値品の拡大を推進します。また、韓国で生産開始したPPS樹脂の拡販をはかります。フィルム事業では、包装・工業材料用途で売れ筋商品の拡販と高付加価値品の拡販に努めます。

Topic

自動車用途を中心に欧米での樹脂事業体制を拡充

東レは、ドイツにおいて新たに高機能樹脂製品のマーケティング・販売会社Toray Resins Europe GmbH(TREU)を設立しました。TREUでは、CAE解析装置及び樹脂評価機器を導入し、欧州のニーズに対応した製品開発・技術支援も行います。また、米国の樹脂子会社Toray Resin Co.(TREC)内に設置している樹脂テクニカルセンターを拡充し、新建屋を増設しました。TRECでは、新たに試作押出機や走査型電子顕微鏡などの設備を導入し、米国での樹脂コンパウンド技術開発と技術支援機能の一層の強化をはかります。

ドイツでの樹脂新会社設立及び米国での樹脂テクニカルセンター増設により、日系自動車部品メーカーに加え、欧州・北米にR&D機能を置く自動車部品メーカーなどのお客様との連携を深め、現地でよりきめ細かなテクニカルソリューションを提案していきます。

加えて、東レグループが世界8ヵ国に展開する樹脂コンパウンド拠点と相互に連携し、お客様のニーズに応じた製品を、各地域の製造拠点に向けてタイムリーに供給していきます。

戦略的拡大事業

情報通信材料・機器事業

売上高
(億円)

2,511億円

2015	2,511
2014	2,480

営業利益
(億円)

262億円

2015	262
2014	245

ROA(営業利益/資産)

7.2%

営業利益率

10.4%

設備投資額

298億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	2,480億円	**2,511億円**	1.2%	2,800億円
営業利益	245億円	**262億円**	6.8%	310億円
資産	3,604億円	**3,629億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

情報通信材料・機器セグメントの売上高は前年度比1.2%増の2,511億円、営業利益は同6.8%増の262億円となりました。

大型液晶パネル向けでは、大画面化が進展し4Kテレビの需要も拡大しましたが、フィルム・フィルム加工品などの関連材料は、中国をはじめ新興国における需要拡大鈍化を背景とした顧客の生産調整の影響を受けました。スマートフォンやタブレット端末の関連材料は、韓国の子会社で高機能回路材料の出荷が拡大するなど、堅調に推移しました。また、国内子会社が液晶カラーフィルター製造装置などの販売を拡大しました。一方で、各材料とも引き続き価格競争の影響を受けており、原価改善などにより採算の維持に努めました。

サブセグメント別売上高

(億円)

年度	2014	2015	増減率
ディスプレイ材料	838	**699**	-17%
電子部品・半導体・回路材料	1,097	**1,194**	9%
記録材料	337	**304**	-10%
機器他	207	**314**	52%

2016年度OUTLOOK

大型液晶パネルの需要は、4Kテレビ向けの拡大などが期待されるものの、全体としては、調整局面が続く見込みです。一方、電子部品関連部材の需要は、堅調に推移する見込みです。また、最終製品価格の下落に伴い、顧客からの値下げ要求は継続することが見込まれます。

こうした事業環境のなか、ディスプレイ用途及び電子部品用途のフィルム・フィルム加工品は、需要が堅調な用途を中心に、高付加価値品の拡販とシェア拡大に努めます。また、今後成長が期待される有機EL関連材料に加え、半導体関連材料、印写材料などの拡販を推進します。

また、車載用を牽引役に需要が拡大するリチウムイオン二次電池向けバッテリーセパレータフィルムの生産体制拡充を進めていきます。

Topic

リチウムイオン電池の高容量化に対応し、負極バインダー用水溶性ポリイミドを開発

東レは、リチウムイオン電池の高容量化に対応するために負極バインダー用に水溶性ポリイミドを開発し、2016年1月からサンプル出荷を開始しました。

負極バインダーとは、リチウムイオン電池の負極を形成する際に金属製の基板に負極材を固定するための材料です。近年、リチウムイオン電池の高容量化に対応し、より多くのリチウムを蓄えることのできるシリコン系負極材の適用が進められていますが、シリコン系は充放電時の体積変化が大きく、強度の低い現行の負極バインダーでは、負極材が膨張と収縮を繰り返すことで劣化して壊れたり、負極材が基板から離脱してしまう問題がありました。

これに対し、ポリイミドの世界トップメーカーである東レは、半導体の保護膜などに使用されている高強度・高弾性のポリイミドを、負極バインダーに適用することを考えました。しかし、ポリイミドの生成には250℃以上の熱処理が必要で、一般的なリチウムイオン電池の製造プロセスへの適用は極めて困難でした。そこで、ポリイミドを分子レベルで改質することで、現行プロセスの150℃以下の熱処理での適用を可能にし、さらにポリイミドを水溶性にすることに成功しました。

今後、ユーザーでの評価を進めるとともに、早期の量産化技術の確立に向け技術開発を加速していきます。

戦略的拡大事業

炭素繊維複合材料事業

売上高
(億円)

1,862億円

2015 1,862

2014 1,584

営業利益
(億円)

361億円

2015 361

2014 262

ROA(営業利益/資産)

8.3%

営業利益率

19.4%

設備投資額

321億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	1,584億円	**1,862億円**	17.6%	2,000億円
営業利益	262億円	**361億円**	37.7%	380億円
資産	4,368億円	**4,295億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

炭素繊維複合材料セグメントの売上高は前年度比17.6%増の1,862億円、営業利益は同37.7%増の361億円となりました。

航空機需要の拡大や風車用途など環境・エネルギー関連需要の拡大を背景に、炭素繊維及び中間加工品(プリプレグ)の出荷が拡大しました。また、2014年後半及び2015年前半に生産を開始した新規設備が増産と拡販に寄与したほか、燃料電池自動車向けの製品の出荷が本格的に開始されました。

サブセグメント別売上高

(億円)

年度	2014	2015	増減率
航空宇宙	780	**944**	21%
スポーツ	160	**157**	-2%
一般産業	644	**760**	18%

2016年度OUTLOOK

2016年の炭素繊維の世界需要は、引き続き航空機用途や環境・エネルギー関連用途が牽引役となり、堅調な伸びが見込まれます。一方、スポーツ用途の需要は、自転車用途は堅調に推移するものの、釣り竿用途が流通在庫の調整もあり低調に推移し前年並みにとどまる見通しです。

こうした事業環境のなか、航空機用途では、ボーイング787向けを中心に出荷が好調に推移するほか、一般産業用途では、需要拡大が続く風力発電関連用途向けをはじめとする環境・エネルギー関連向けに拡販を推進します。スポーツ用途では、高付加価値品へのシフトを一層進めます。

Topic

ボーイング社とトレカ®プリプレグの包括的長期供給契約を正式締結

東レは、米国のThe Boeing Company(以下「ボーイング社」)との間で、既存の「787」プログラムに加え、新型機「777X」プログラム向けに炭素繊維トレカ®プリプレグを供給する包括的長期供給契約を正式に締結しました。本契約は、2005年11月に締結した包括供給契約をさらに10年以上延長するもので、今後の「787」「777X」両プログラム向けの契約期間における東レグループの供給総額は、1.3兆円(110億ドル)を超える見込みです。これに合わせて、米国サウスカロライナ州スパータンバーグ郡の新規事業用地において、約500億円を投じ、原糸(プリカーサ)から焼成まで一貫の高性能炭素繊維トレカ®生産設備(年産能力2,000トン)、及び炭素繊維トレカ®を使用したプリプレグ(炭素繊維樹脂含浸シート)の生産設備の新設を決定しました。

東レは新規事業用地において、2020年までに1,000億円規模を投じて米国での炭素繊維複合材料事業の拡大をはかることを計画しており、今回の投資はその第一弾です。

東レは、中期経営課題"プロジェクトAP-G 2016"において、炭素繊維複合材料事業の航空宇宙分野での飛躍的な事業拡大を目指しています。今後ともボーイング社向けの材料安定供給体制を拡充し、事業構造の高度化と収益拡大を進めていきます。

重点育成・拡大事業

環境・エンジニアリング事業

売上高
(億円)

1,833億円

2015 1,833

2014 1,800

営業利益
(億円)

96億円

2015 96

2014 80

ROA(営業利益/資産)

4.8%

営業利益率

5.2%

設備投資額

36億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	1,800億円	**1,833億円**	1.9%	2,200億円
営業利益	80億円	**96億円**	19.5%	120億円
資産	2,042億円	**1,938億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

環境・エンジニアリングセグメントの売上高は前年度比1.9%増の1,833億円、営業利益は同19.5%増の96億円となりました。

水処理事業は、コストダウンの進展や円安を背景に、逆浸透膜などの日本からの輸出について採算の改善が進みました。また、海外では米国、中国、韓国の子会社の業績がいずれも堅調に推移しました。

国内子会社は、エンジニアリング子会社でプラント工事が減少しました。

2016年度OUTLOOK

水処理事業を巡る事業環境は、中東の政情不安、原油安による産油国での新規案件形成・交換案件の先送り、中国での景気減速など、世界的には不透明な状況が続くことが見込まれます。

こうした事業環境のなか、日本、米国、中国、韓国、サウジアラビアに展開するグローバルな生産拠点の連携を強め、さらなる拡販とともに徹底的なコストダウンを推進します。

エンジニアリング事業においては、プラント工事の拡大や産業機器の拡販を目指します。

Topic

韓国最大の膜ろ過水道浄水設備向けにUF膜トレフィル®を受注

東レは、韓国最大となる麗水(ヨス)市の膜ろ過水道浄水設備向けに、中空糸限外ろ過(UF)膜トレフィル®を受注しました。同設備は、134,000㎥/日の処理規模を有するとともに、東レのUF膜納入案件としても最大の処理規模となります。また、本件の採用により、韓国の水道浄水膜設備で東レの処理水量合計は22万㎥/日以上となり、50%近いシェア*を占めることになります。

東レはこれまで、韓国において、公州(コンジュ)や任實(イムシル)浄水場などへのトレフィル®の納入実績を持つ他、2017年稼働予定の城南福井(ソンナムボクジョン)浄水場への納入も決定しており、すでにトップシェアを有しています。今回の採用決定はこれらの実績が信頼を得た結果です。加えて、2014年に韓国の大手逆浸透(RO)膜メーカーであるウンジンケミカル社(現Toray Chemical Korea Inc.)を買収し、水処理事業のさらなる拡大を進めています。

麗水浄水場へのトレフィル®納入は2016年中、プラント稼働開始時期は2017年の予定です。

*処理水量5,000㎥/日以上の浄水場案件集計(当社推定)

重点育成・拡大事業

ライフサイエンス事業

売上高
(億円)

558億円

2015 558

2014 570

営業利益
(億円)

31億円

2015 31

2014 41

ROA(営業利益/資産)

3.7%

営業利益率

5.5%

設備投資額

32億円

年度	2014	2015	増減率	2016見通し
売上高	570億円	**558億円**	-2.1%	640億円
営業利益	41億円	**31億円**	-24.7%	50億円
資産	829億円	**833億円**		

2016年度の見通しは、2016年5月12日に発表したものです。

2015年度連結業績の概況

ライフサイエンスセグメントの売上高は前年度比2.1%減の558億円、営業利益は同24.7%減の31億円となりました。

医薬事業は、天然型インターフェロンβ製剤フエロン®や経口プロスタサイクリン誘導体製剤ドルナー®の出荷が、代替治療薬や後発医薬品の影響を受けたことなどにより低調に推移しました。また、ライセンス収入が減少しました。一方、経口そう痒症改善剤レミッチ®*は、国内における慢性肝疾患向けの効能追加承認を取得したことで、販売数量を伸ばしました。

医療機器事業は、ダイアライザーの出荷が拡大したことに加え、輸出採算の改善が進んだことから、業績は堅調に推移しました。

2016年度OUTLOOK

医薬品・医療機器市場は、薬価及び償還価格改定年度にあたり、厳しい事業環境となることが予想されます。

こうした事業環境のなか、医薬事業では、2015年5月に慢性肝疾患向けの効能追加承認を取得した経口そう痒症改善剤であるレミッチ®の拡販を進めるとともに、医療機器事業では、ダイアライザーや透析装置などの拡販を推進します。

Topics

レミッチ®カプセル2.5μgの国内における効能追加承認取得

東レが製造販売承認を取得し、鳥居薬品(株)が日本国内で血液透析患者におけるそう痒症改善剤として販売中のレミッチ®カプセル2.5μgについて、2015年5月20日に、「慢性肝疾患患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る)」を新たな効能または効果として承認取得しました。

発作性心房細動治療用カテーテル・アブレーションシステムの承認取得

東レは、高周波バルーンカテーテルSATAKE・HotBalloon®カテーテル、専用高周波発生装置SATAKE・HotBalloon®ジェネレータ及びカテーテル挿入用シース トレワルツ®の3つの医療機器について、2015年11月18日付で製造販売承認を取得しました。これらの組み合わせとして構成されるSATAKE・HotBalloon®システムは、世界で初めて高周波を利用したバルーンによる発作性心房細動治療用カテーテル・アブレーションシステムです。

*レミッチ®は鳥居薬品(株)の登録商標です。